

■学校経営のポイント

外国語活動と外国語科の授業を振り返る

小島 宏

新設された小学校中学年の外国語活動と、高学年の外国語科に、各学校は意欲的に取り組んでいる。今号では、外国語活動と外国語科の授業の工夫について考える。

実際に困っていること

指導している教員からは、「外国語活動や外国語科の授業で、子供たちに、どのように学習させたらよいか悩んでいる」という声が少なくない。

つまり、「何を」学ばせるかは、教科書や教材に沿って進めていけばよいが、「どのように」学習させたら、子供たちが関心をもって、意欲的に学習するようになるのかについて困っているというのである。

目標の確認が重要

まず、「何(指導内容)」を、「何(教科書、教材)」で学ばせるかを理解するために、外国語活動と外国語科の目標を確認しておきたい。このことを抜きに授業をしても、肝心の「本時の目標」が曖昧になる恐れがあるからである。

そこで、小学校学習指導要領「第4章外国語活動」と「第2章第10節外国語」で、それぞれの目標を改めて確認することが必要である。

なお、「小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語科編(pp168～169)」によると、小学校外国語活動や外国語科、中学校外国語科の目標及び5領域「聞くこと、読むこと、話すこと(やり取り)、話すこと(発表)、書くこと」の目標を関連的に理解することができる。

中学年の外国語活動のポイント

外国語活動では、「聞くこと」「話すこと(やりとり)」「話すこと(発表)」の3領域において、音声言語によるコミュニケーションの素地となる資質・能力を育成することが重点である。

高学年の外国語科(英語)のポイント

中学年の外国語活動を通して外国語に慣れ親しみ動機づけを高めた上で、高学年からの発達段階に応じて、「読むこと」と「書くこと」を加えた5領域で、総合的・系統的に扱うことである。

また、中学校の外国語科への発展を意識して、中学校と連携して進めるよう努めたい。

授業の改善・工夫・開発

外国語活動と外国語科の学習にあっては、実体験や疑似体験を通して体験的に学ばせることである。

遊びと体験、歌やゲーム、リズムチャンツ、動画教材、NHKのテレビ番組、ペアやグループの対話学習、オンライン授業などの工夫、さらにALTの活用に加え、外国人との触れ合いなどもある。

その際、「通じる」「わかる」など進歩の実態を捉え、肯定的に評価して、興味・関心・意欲を高めることが重要である。

どのような趣旨の学習活動・体験活動をさせるかについては、前掲の「解説外国語活動(pp19～24等)・外国語編(pp76～82等)」に具体的に解説されているので参考になる。

管理職のリーダーシップ

子供たちは学校外で、アプリの利用、学習塾通い、TVや映画の視聴など自ら広げていくことが少なくなっている。これらの実態を踏まえ、指導を進める必要がある。

また、授業展開に当たっては、15分や20分の短時間を活用するモジュール制も考慮したい。

さらに、教材の開発、授業の改善・工夫などについては、校内で協働するよう促し、共有し、学校の財産として活用する。さらに、近隣の中学校との連携や保護者や地域人材の活用も積極的に進めたい。

(こじま・ひろし=元東京都公立小学校長・(公財)豊島修練会理事長)

《最新刊!》 ●答申・通知のポイントが3分でわかる!
マップ&シートで速効理解! 最新の教育改革 2021-2022

【編著】金子一彦 B5判/208頁/定価2,420円(税込)

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <https://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>をご利用ください。

